

2008年に開業した石山整形外科は、変形性関節症や骨粗鬆症、リウマチなど、高齢者に多い疾患を中心に診療を行っています。2010年には同院の隣にデイケアセンターをオープン。「この診療所の周辺で寝たきりになる高齢者をゼロにしたい」と、院長の石山照二先生は抱負を語っています。

自分本来のスタイルで診療したい

勤務医時代、整形外科で数多くの手術を手掛けてきた石山先生ですが、術後の治療は他の医師に委ねられていました。執刀医が術後の経過を把握しながら退院までケアすることが難しい診療体制に、先生は「自分の本来のスタイルではない」と感じていたそうです。そこで、「一人一人の患者さんに対し丁寧な診療を行いたい」と開業を決意しました。同院に通う患者さんは周辺の地域の人が多いのですが、大阪や奈良から通院する人もいます。「膝や腰に疾患があるために歩行が困難で、通院が難しいという患者さんのために、自宅まで出向いて診察することもあります。『患者さんを大事にする』という理念のもと、ニーズに合わせた診療を行っています」と石山先生は話します。



下肢に障害がある患者さんも多いので、待合室をはじめ院内の通路は車椅子でも余裕を持って通れるように幅を広くとっています。

提携先の病院で手術を行うことも



リハビリ室では、ウォーターベッド型マッサージ治療器や頸椎牽引治療器などを使って痛みをとるためのリハビリが行われています。

同院の患者さんで多いのは、膝や肘などの変形性関節症や骨粗鬆症などです。薬物療法や運動療法、装具療法などが行われていますが、手術が必要な患者さんに対しては、連携先の病院で石山先生が手術を行うこともあります。「退院後は当院に通院してもらい、経過を見守ります。手術から術後のリハビリまで一貫した治療を行うことが可能となりました」。また、病診連携が大切だと考える先生は、疾患ごとにその治療を得意とする医療機関を患者さんの希望に合わせて紹介するようにしており、「整形外科の分野においてはベストな治療が行えるようになっていきます」と話します。そして、診察の際に石山先生が気を配っているのは、患者さんが何でも話せる雰囲気をつくることです。例えば、痛いところがあれば素直に「痛い」と言えるように、常に自然体で接して、壁をつくらないように心掛けています。

デイケアセンターで高齢者の運動機能の回復を

同院に隣接するデイケアセンターでは、理学療法士による関節の可動域を広げる訓練や筋力増強訓練、マシンを使った四肢筋力強化などのリハビリが、患者さん一人一人の運動能力に応じて行われています。膝の変形や骨粗鬆症が原因で寝たきりになる高齢者が増加していることから、それらを予防することが目的として位置付けられ、寝たきりゼロをめざしているそうです。「病気の進行や骨折などを防ぐことも、地域に密着する医療機関の役割と考えています。通院患者さんで、運動機能が落ちている場合には、デイケアセンターで運動機能回復のリハビリを受けてもらうようにすることもあります。運動能力が次第に回復していく患者さんを見ると手応えを感じますね」と石山先生。患者さんのQOL向上のために、先生は患者さんを継続的にケアするという自分本来のスタイルで診療を続けていきます。



運動機能を回復するためのマシンが並ぶデイケアセンター。室内の隅にはテーブルが置かれ、飲み物を飲んだりしてくつろげるスペースが設けられています。